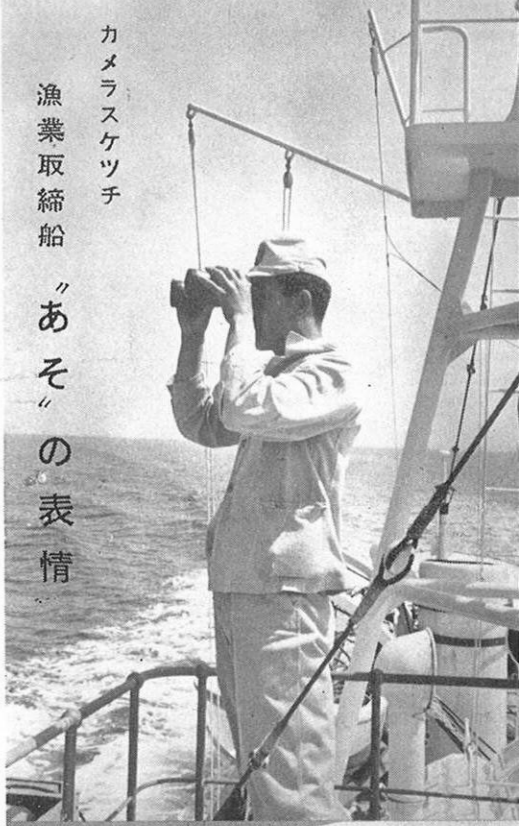


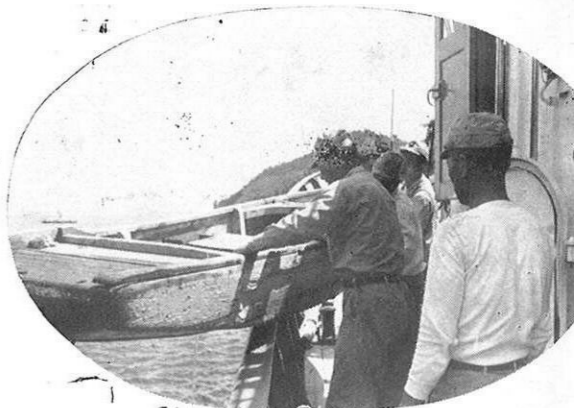
カメラスケッチ

漁業取締船「あそ」の表情

(たゆまぬ見張りを続ける警備員)



下・いざという時に備えて……救助訓練のひとつ

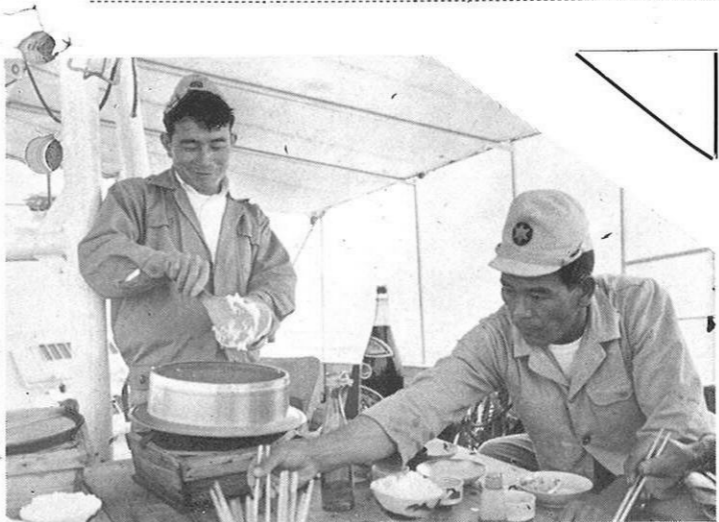


上・ゆきといた機械設備 (左)が音響測深機 (右)が方向探知機

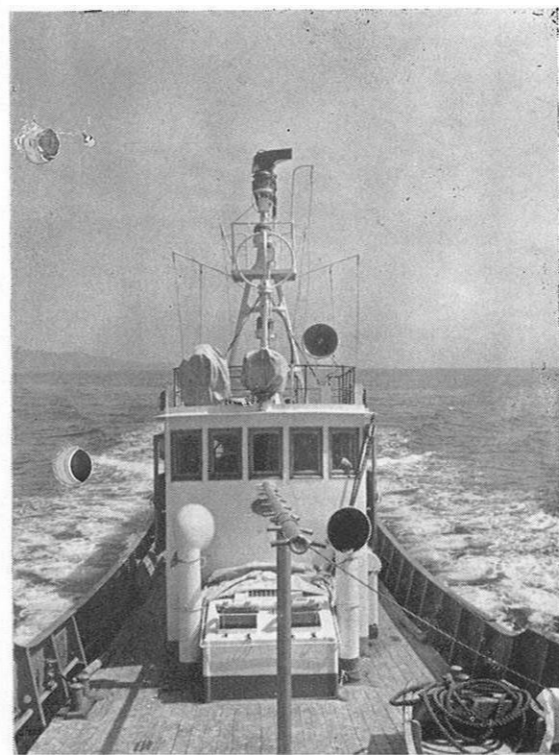


上・夏の陽をあびて……スマートな「あそ」の全容

天草の牛深を基地にして、熊本の沿海を白波たてて往きくする県漁業取締船「あそ」…夏の日「あそ」に同乗して、その活動の姿をスケッチしてみました。(くわしくは次頁をごらん下さい)



上・サア！昼飯だ、自慢の海の料理にみんな舌つづみ



左・波しぶきをけたて、「あそ」は今日も南下をはじめ。

ルポ 密漁船を追う

漁業取締船「あそ」同乗記

いま県下の漁業者はおよそ一万户。これらの多くは有明海や不知火海に生活のよりどころを求めて、平穩な毎日を送っていますが、その反面、他に漁場をもつ中型底曳漁船などが時ならず出没して、沿岸漁業者たちの生活をおびやかすことも大へん多いためです。

県の漁業取締船「あそ」はそのような悪質漁船を取締る目的で、今日も県の近海を縦横に走って活躍をこつこつとつづけています。以下はその同乗記です。

みごとに晴れたつた青い空。基地の牛深港を出た海のバトール船「あそ」は、鋼製の白くスマートな船体を海に浮べて、これから水俣港の沖へ向って南下をはじめます。

「それから一時間。ひろがる海上はしずかな風にくぐまれ、十一ノットの速力はまっ白な水しぶきと航跡を残しながら先へ先へ。

操舵室では時吉船長が鮮やかにラットを操り、船首の前方海上においつと眸をこらして航行に十分に注意を払っています。操舵に使う神経はそうとうなもので、時吉船長は……

「日中はとにかくも、夜間となるとひどく疲れますね。海上には楯をこぐ漁船やスピードのおそいチャッカーなどが無灯火している場合も多いので船首の向うにその姿を発見したと思つた瞬間にはもうすぐそばに迫っている、といったことが多いいんです。」とやりきれなさそう。「あそ」は仕事の性質からして速力があり、ラットの前にあるスクリーンの廻転計は三三〇を指しています。これは一分間の廻転数で、航行中疑わしい漁船の発見となると速さを三五〇から六〇〇にあげ、いよいよその確認となればさらに四〇〇廻転にあげます速さにして一四ノットということになります。

取締りは陸上とは勝手がちがいが苦勞も多く、中型底曳網漁船をす早く発見してもこちらの船体が大いいために先に発見されていて、すつかり証拠品をいん滅される場合があります。又相手を追いつめてゆくと機敏な方向転換で体をかかわされたり、凄く抵抗にあつたりします。この状況を船長さんは

「むこうはコブシ大の石をこちらの操舵室めがけて、いつせいに投げつけてくるんです。窓ガラスが壊されると汐風や水しぶきが入ってきて早速航海に差支えるからたいへんなことになります。ですからそんな場合は相手を追い払うだけで検挙できずに終つてしまします。」といかにも残念そう。そしてさらに「この型の取締船がもう一隻ありますと相手をまん中に挟んでやすやすと捕えることもできるんですが……」

密漁船を発見取締るに便利なのは八倍の双眼鏡のほかに、レーダーが大きな役割を果します。マストの上に取りつけた七インチのレーダーは、ぐるぐると電波を発射しながら廻りつづけて、散在する小さな島はもちろん、周囲の漁船でも適確に捉え、その位置を操舵室の画面に像をえがいてゆきます。

この漁業取締船はたんに本県近海の漁業を取締るだけでなく、海難漁船などの救助にも当つて多くの漁船から親しみをもちたれています。「あそ」が就航した昨年九月から今日までの成績は中型底曳網漁船の検査が二件でそれぞれ検査庁と水産庁に引渡してあり、漁具を引揚げて送検したものが五件、臨検して注意したのが二件、内海では小型底曳の検査が十件、無許可操業の摘発が五件、この外遭難船の救助が三件、行方不明の捜索が

一件となつています。

中型漁船は一五トント五〇トン未満の船舶をいうのですが、中には指定遠洋漁業の認可をもつ以西底曳網漁船などは五〇トン以上もあつて、長崎県の野母崎と本県のコシキ島を結ぶ線の以東が操業の禁止区域です。これらの漁船はその目印として操舵室の外側をカーキ色で塗り、船首に日の丸の旗を立てていますので、明るいいだは確認しやすいわけです。

以上のような説明をきいている間に「あそ」はすつかり沖に出ていました。海の色も青く濃くなつてきましたので、ちよつと音響測深機で海の深さを測つてもらいますと、その機械は三十五、六メートルの線をすうつと描いてゆきます。船長以下十人の乗組員たちは、思い立つたように受持のポジションについています。「あと数日すれば宮崎県の共同取締りにてかれます。この取締りも近県がお互いに協力しながら沿岸漁業の秩序を保つ共通の目的をもつており、その効果は大きいんですよ。それがすめば、この船を造つてくれた大分県の白杵鉄工所のドックで船体の垢おとしをやり、ついでに香川県の高比羅詣りにてかけようかと考えているところですよ。縁起をかつくようですよ。一年を航海無事とおせしたのも、やはり、海の神様のおかげですから。」と笑顔をみせる船長さんの表情は、違反漁船も見当らなかつた今日の一日を心から喜んでいるようでした。(広報課)